

第1学年 生活科 学習指導案

日 時 平成30年10月10日(水)【公開授業Ⅰ】
児 童 1年1組 男12名 女 7名 計19名
1年2組 男11名 女 7名 計18名
授業者 T1 星 洋 T2 柏葉 美智子
個別指導支援員 高橋 裕子
場 所 体育館

1 単元名 「つくろう あそぼう」

2 教師の願い

本単元では、身近にある自然や身近にある物の組み合わせを考えて自分たちでおもちゃをつくる楽しさを味わう活動を中心に設定する。「身近にある物を使っておもちゃをつくって楽しく遊びたい」という思いや願いをもって身近にある物や友だちと関わり、工夫しておもちゃをつくる活動に取り組みながら、身近にある物を使って遊ぶ面白さや自分のよさ、友だちのよさに気付いていく児童を育成したいと考える。さらに友だちとの関わりを保育園年長児にまで広げ、相手のことを考え、保育園児と楽しく遊ぶためにさらに工夫することを考えさせたい。そのことにより、友だちのよさや自分との違いを考えたり、相手を尊重したりする態度も身に付けさせていきたい。

3 児童について

児童は、これまでアサガオを育てる活動を通して、その変化や成長の様子に気付くことができた。また、飛勢城公園や学校の周りでの観察、草花を使った遊びなどの活動を通して、五感を使って自然と関わる経験をしている。友だちと一緒に身近な自然と繰り返し関わりながら、夏と秋とでは見られる草花や虫に変化があることに気付くことができた。「なつだ あそぼう」では、水を利用して遊ぶおもちゃづくりの活動を通して、つくりたいおもちゃを試行錯誤しながらついたり、友だちと遊びながら交流したりすることができた。その中で友だちのおもちゃのよさに気付き、そのよさを自分のおもちゃに取り入れ、もっと楽しく遊べるように工夫しようとする児童も見られた。

4 題材について

本単元は、学習指導要領の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」を受けて設定した。身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びに使う物を工夫してつくり、つくった物で遊び方を工夫しながらみんなと楽しく遊んだりする活動を通して、身の回りにある物を使って遊ぶ面白さや自然の不思議さに気付くとともに、自分や友達のよさに気付くことができるようにするのに有効な題材といえる。

5 単元目標

身近な自然物や身の回りにあるものを使って、おもちゃを工夫してついたり、遊び方を工夫したりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことができる。

6 単元で育てたい資質・能力

知識・技能の基礎	・身近な自然や身近にある物を使っておもちゃをつくる面白さやみんなで遊ぶことの楽しさに気付く。① ・遊びのルールや約束を工夫すると楽しく遊べることや、友だちのおもちゃには、自分のものとは違うよさがあることに気付く。②
----------	--

思考力・判断力・表現力の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた材料の中から、使ってみたいものを選び、試したり、見立てたりして、工夫しながらおもちゃをつくる。③ ・実際に遊ぶ中で、みんなが楽しく遊べるように考え、遊びのルールや約束を工夫する。④ ・相手が園児であることを考えて、おもちゃを改良したり遊びのルールや約束を工夫したりして一緒に遊ぶ。⑤
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や身近にある物を使って、おもちゃをつくったり、みんなで楽しく遊ぼうとしたりする。⑥ ・自分たちが園児を楽しませることができたことが分かり、自分自身の成長に気付く。⑦

7 単元の指導計画（14時間）

過程	○主たる活動 ・具体例（時数） 番号は資質・能力	評価規準（評価方法）
思いや願いをもつ (2)	<ul style="list-style-type: none"> ○自然物や身近にある物を使って遊ぶことを通して、おもちゃをみんなでつくって遊びたいという願いや思いを持ち、テーマを設定する。（1）⑥ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">つくってあそぼう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○おもちゃをつくる計画を立てる。（1）③⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・つくりたい物を全体で話し合う。 ・自分でつくりたい物を絵に描いたり必要な材料や道具を考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物や身近にある物で遊んで、素材や遊び方の面白さを実感し、身近にある物でおもちゃをつくって遊びたいという思いをもつ。（観察・発言） ・自分でつくりたい物を絵に描いたり必要な材料や道具を考えたりする。（観察・学習シート）
かかわる (10) 本時 8/10	<ul style="list-style-type: none"> ○自然物や身近にある物を使っておもちゃをつくる。（4）①③ ○作ったおもちゃを紹介し合ったり、一緒に遊んだりして友だちと交流しよいところを見つける。（1）② ○もっと楽しく遊べるようにおもちゃを改良したり、楽しく遊ぶための遊び方を考えたりする。（1）④ ○遊び方を守って、みんなで楽しく遊ぶ。（1）①② <ul style="list-style-type: none"> ・全部のおもちゃで遊んで、友だちの遊びのよさを見つける。 ○保育園児を招待することを確かめ、楽しく遊べるように工夫することを考える。（1）⑤【本時】 ○保育園児に合わせ、おもちゃを改良したり、遊び方を変えたりする。（1）⑤ ○保育園児を招待し一緒に遊ぶ。（1）①⑤ 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた材料の中から、使ってみたいものを選び、試したり、見立てたりして、工夫しながらおもちゃをつくる。（観察・制作物） ・自分のおもちゃと友だちのおもちゃには、違うよさがあることに気付いている。（観察・発言） ・みんなが楽しく遊べるように考え、おもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりしている。（観察・学習シート） ・実際に遊ぶ中で、友だちのおもちゃづくりや遊び方のよさを見つける。（発言・観察） ・相手が保育園児であることを考えて、おもちゃの改良や遊び方を工夫することを考えている。（観察・学習シート） ・保育園児と楽しく遊べるようにおもちゃを改良したり遊び方を工夫したりしている。（観察） ・保育園児と一緒に楽しく遊んでいる。（観察）
ふりかえる (2)	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しかったことやがんばったことをカードに絵と文で書き、振り返る。（2）⑦ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが保育園児を楽しませることができたことを分かり、自分自身の成長に気付いている。（観察・学習シート）

8 本時の指導

(1) 本時の目標

保育園児と楽しく遊ぶことができるように、自分たちが作ったおもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりすることを考える。

(2) 本時の展開

段階	学習内容と活動	教師の支援・評価【資質・能力】
導入 5分	1 前時までの振り返り 2 本時の課題を確認する。 保育園のお友だちと楽しく遊べるように工夫することを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 主に T1 が全体指導を行い、T2 は支援が必要な児童のサポートにあたる。 みんなが楽しく遊べるように工夫したことを中心に振り返り、本時の課題につなげていく。(T1) 保育園からのお手紙を紹介しながら、活動の意欲を高め、保育園児の立場になって工夫していくという相手意識をはっきりもたせる。(T2)
展開 35分	3 学習の流れを知る。 ・本時の学習は、「おもちゃの改良」「遊び方」という2つの視点で考えていくことを理解する。 4 遊びながら工夫することを探す。 5 グループごとに話し合う。 ・「おもちゃの改良」「遊び方」という2つの視点で話し合う。 6 工夫することをまとめてカードに記入し、全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 実際に遊びながら工夫することを探す→話し合う→カードにまとめるという流れをつかませる。(T1) 「おもちゃの改良」「遊び方」という2つの視点で工夫することを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>内容(1) 協働的な学習の場の工夫 同じおもちゃごとに3人程度のグループをつくり、そのグループで意見交流をさせることで、自分が気付かなかったことに気付かせる。</p> </div> T1 は、「まといれ」「さかなつり」T2 は、「けんだま」「こま」「わなげ」のそれぞれのグループの話し合いを支援する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価【⑤】 相手が保育園児であることを考え、おもちゃの改良や遊び方の工夫ができる。(観察・学習シート)</p> </div>
終末 5分	7 本時の活動を振り返る。 8 次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 視点を明らかにしながら、カードに記入することで本時の活動を振り返らせる。 児童のがんばりを認めながら、次への活動の意欲を高めていく。

(3) 評価規準

資質・能力	ねらいを達成している児童	努力を要する児童への支援	評価方法
⑤	相手が保育園児であることを考え、おもちゃの改良をしたり遊び方の工夫をしたりしている。	同じグループの友だちの意見を参考にさせ、工夫する点を考えさせていく。	○観察 ○学習シート
達成している児童の具体的な例	○もう少しひもを短くすると魚を釣りやすくなるんじゃないかな。 ○もっと近くから投げてもいいルールにすると、的に当てやすくなるんじゃないかな。		